内服のための説明書 <デシコビHT、アイセントレス400mg>

※　代表的な副作用などの使用上の注意のみを記載しています。（詳細は添付文書参照）

内服の意義

□針刺しなどでＨＩＶ汚染血液に曝露された場合の感染のリスクは、0.5～0.3％とされており、Ｂ型肝炎やＣ型肝炎の同じような曝露の場合の感染リスクに比べそれぞれ1/100～1/10と低いが感染リスクが0％ではありません。
□今のところ感染が成立してしまった場合、治癒できるような治療法は確立されていません。
□感染直後に予防薬を内服することで感染のリスクを低下させることができます。

内服に当たっての注意点

□妊娠の有無を確認しました。
　この薬剤は、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対する安全性は確立されていません。
　妊娠が明確または疑われる場合は、専門家に相談することが推奨されますが、そのために曝露後予防が遅れてはならないとされています。
□Ｂ型肝炎であるか確認しました。
　Ｂ型肝炎患者がこの薬剤内服を中止した場合、肝炎が悪化することがあります。従って、この薬剤を服用する前には、必ずＢ型肝炎の有無を調べてもらう必要があります。
□予防内服される抗ＨＩＶ薬

薬剤名	デシコビHT　（略名：TAF/FTC）	アイセントレス400mg　（略名：RAL）
剤型		
飲み方	①　 ＋ デシコビHT　１錠　　アイセントレス400mg　１錠	
	②　 アイセントレス400mg　１錠	
	• １日２回　（食事の影響なし） • １回目は①をできるだけ早く内服する。 • １２時間後に②を内服する。 • その後１２時間毎①と②を交互に内服する。	
保存方法	室温保存	
副作用	１：主な副作用 悪心 下痢 疲労　等 ２：重大な副作用 腎不全又は重度の腎機能障害 乳酸アシドーシス　等	１：主な副作用 悪心 頭痛 不眠症　等 ２：重大な副作用 皮膚粘膜眼症候群 薬剤性過敏症症候群 過敏症　等
注意点	普段よく使われる薬剤や市販の胃薬、サプリメントの中に相互作用を有するものがあり注意が必要です。他院にかかっている人は、必ず内服している薬剤を責任医師に見せてください。また、他院に行く時も、内服のための説明書を必ず持参するようにしてください。	

［曝露当事者用］

内服のための説明書 <デシコビHT、アイセントレス600mg>

※　代表的な副作用などの使用上の注意のみを記載しています。（詳細は添付文書参照）

内服の意義

□針刺しなどでＨＩＶ汚染血液に曝露された場合の感染のリスクは、0.5～0.3％とされており、Ｂ型肝炎やＣ型肝炎の同じような曝露の場合の感染リスクに比べそれぞれ1/100～1/10と低いが感染リスクが0％ではありません。

□今のところ感染が成立してしまった場合、治癒できるような治療法は確立されていません。

□感染直後に予防薬を内服することで感染のリスクを低下させることができます。

内服に当たっての注意点

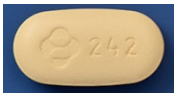
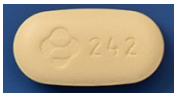
□妊娠の有無を確認しました。

この薬剤は、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対する安全性は確立されていません。妊娠が明確または疑われる場合は、専門家に相談することが推奨されますが、そのために曝露後予防が遅れてはならないとされています。

□Ｂ型肝炎であるか確認しました。

Ｂ型肝炎患者がこの薬剤内服を中止した場合、肝炎が悪化することがあります。従って、この薬剤を服用する前には、必ずＢ型肝炎の有無を調べてもらう必要があります。

□予防内服される抗ＨＩＶ薬

<table>
<tr><td>薬剤名</td><td>デシコビHT　（略名：TAF/FTC）</td><td>アイセントレス600mg　（略名：RAL）</td></tr>
<tr><td>剤型</td><td> </td><td>  </td></tr>
<tr><td rowspan="2">飲み方</td><td colspan="2"> ＋ 
デシコビHT　１錠　　アイセントレス600mg　２錠</td></tr>
<tr><td colspan="2">• １日１回　（食事の影響なし）
• 毎日同じ時間に内服する。</td></tr>
<tr><td>保存方法</td><td colspan="2">室温保存</td></tr>
<tr><td>副作用</td><td>１：主な副作用
悪心
下痢
疲労　等

２：重大な副作用
腎不全又は重度の腎機能障害
乳酸アシドーシス　等</td><td>１：主な副作用
悪心
頭痛
腹痛　等

２：重大な副作用
皮膚粘膜眼症候群
薬剤性過敏症症候群
過敏症　等</td></tr>
<tr><td>注意点</td><td colspan="2">普段よく使われる薬剤や市販の胃薬、サプリメントの中に相互作用を有するものがあり注意が必要です。他院にかかっている人は、必ず内服している薬剤を責任医師に見せてください。また、他院に行く時も、内服のための説明書を必ず持参するようにしてください。</td></tr>
</table>